

(一社)日中文化振興事業団 会報 (旅行特集3号)



旅行特集3号 2025年11月03日(月)
(一社)日中文化振興事業団 主催
編集者 胡金定(甲南大学名誉教授)
電話 090-3350-8368
E-mail kokintei-1@mpd.biglobe.ne.jp

(一社)日中文化振興事業団による『胡先生と行く 雲南省・四川省の旅』企画

2024年10月11日～18日、一般社団法人日中文化振興事業団が主催する「胡先生と行く 雲南省・四川省の旅」7泊8日間で中国雲南省麗江市、四川省成都市、樂山市へ友好交流をしてきました。

今回の旅行を記念に参加者全員に旅行記や感想文を書いて頂き、「(一社)日中文化振興事業団会報」(旅行特集号)に掲載しました。参加者の氏名(順不同、敬称略)を下記の通り

若月章、井上一・さち子、秦爽、余保充徳、竹田昇・清美、高木優次、増田和俊、岡田達也・直子、古瀬裕功、久野正博、中島章雄、鴻原明子、金馬悦子、吉田豊昌・まゆみ、陸洋、胡金定 (参加者20名)

日中における民間の交流

竹田 昇



今回の旅行において、胡金定先生には旅行前に計画立案・準備・旅行代金の送金、旅行中には樂山市政府のスケジュール変更に伴う対応等の全てをしていただき、更に参加者の皆さんが楽しく旅する事が出来るように、常に盛り上げて頂き、感謝しきれないほど感謝しております。

“新桃園“の三兄弟の誓いの儀式では、先生はお酒を、私と岡田さんはスープを飲み干した義兄弟3人の一人として、来年の長沙・西安旅行では出来る限りの先生のフォローと、楽しい旅になるよう、私自身得意とする盛り上げ役を果たそうと思っております。

今回の旅行における最大の目的であった政府との交流においては、胡金定先生が今までにつちかかってきた人脈とお人柄のおかげで、樂山市政府には豪華なレセプション会場で素晴らしい食事を開催して頂き、食後の交流会の場では中国語と英語の絵本を市政府の皆様にお見せして喜んでいただく事が出来、有意義な交流となりました。マロドン企画としても大きな1ページを刻む事が出来、大変喜んでおります。絵本に登場する猫のマロちゃんも犬のドンちゃんも、感激して絵本の中を走り回っている事と思います。

私が山東省青島に駐在していた2012年9月に、尖閣諸島問題で日中関係が最悪の状態になり、日系企業を狙った投石やジャスコへの襲撃事件が起きました。その時青島市政府は政府の手配で公安が工場の回りの警備に当たってくれて難を逃れるといった事がありました。私は老朋友(古い友達)として政府の人たちと友好的な交流を続けてきた事が難を逃れる事が出来た一因だと思っています。

会社では社員に対しても自分を隠さずさらけ出し、幹部社員であっても工員さんであっても平等に接する様に信頼関係を築いていました。今でも部下であった社員やサッカー部の仲間達とWeChat(中国版LINE)で常に連絡を取り合っていて、彼らからいつでも青島に遊びに来て下さい！一緒にサッカーしましょう！と言われていました。来年には久しぶりに青島に行こうと思っています。

民間と民間の友好的な交流を深めていく事は、日中関係の改善に繋がると信じ、偏った固定観念を捨て、真実を自分の目で確かめ、お互いに敬意を持って尊敬し合えるように、自分自身を高める事から始めようと思っています。

人とのつながりと思いやり

金馬 悦子

日中文化振興事業団の企画する中国旅行は去年に続いて2度目の参加。去年は三国志ゆかりの地への訪問ということで旅行前から興奮していたのだけど、今回は査証の申請も必要なく事前準備もなしに流されるように参加することになった。ほとんどの参加者が顔見知りで気安いの、胡金定先生をはじめ理事の皆さまが企画してくれる旅行に間違いがあるはずが無い！と確信していた。超お気楽参加の上予備知識なしだったので金魚の糞のごとく皆さまにくっついて行き「私達はこんなにすごい所に来ているんだ！」と

場所場所で感激。中国の大自然に初めて触れた。そして旅行の中身の濃さには驚きであった。頭も身体も使う旅行は団体旅行では初めてだったが、不思議と疲れなかった。よく寝たせいか。

トンパ文字は20年前位から若者の間で流行っているらしいが、私はトンパ=東巴とは思わず、現在も使われている象形文字とは知らなかった。東巴文字はどんなことでも表現できるようで、是非とも



この文字を習ってみたい。雲南省には多数の少数民族が共存していて、漢民族と共存できているのはすごいこと。お互いの文化・習慣を尊重していないとできないことだ。日本も見習うべきことが多々ある。中国の官が日本の民を歓待して交流できるのもすごい機会で、こうして受けた親切で交流の輪が人々の間に広がっていくのだと思う。

私にとって中国旅行の醍醐味はやはり食事であり、各地の料理を堪能することができて幸せ。中国人の食に対するこだわりは好ましいが、峨眉山での昼食では流石にびっくりあんな慌ただしい中で料理の円卓を囲んでしっかり昼食を食べる。普通の日本人なら簡単な包子で済ませてしまうだろう。これが中国人の逞しさ、パワーの源なんだと実感。

今回の旅行で再認識したことは、人と繋がることの大切さ、相手を尊重し相互理解を深めていくこと。そして思いやり。一見バラバラなようでも何か問題があるとみんなでフォローし合い、やさしさに包まれていく。いっぱい受け取ったみなさんの親切と思いやり私も返せるようにしたい。

民間交流の絆を実感する旅に感謝感動

竹田 清美



この度の日中友好訪問の旅は、胡金定先生の真心こもる旅程の下準備と市政府への気遣いに細心のご尽力により一員に加えていただき、大成功に至りましたことを皆で喜び合いたいと思います。心より敬意をもって御礼申し上げます。

麗江と成都への考察ツアー訪中に、前もって薛劍総領事のもとに報告会に参加しました。自身にご迷惑をかけないようにと心して迎えた旅行でした。皆さんと元気に大阪関西国際空港から出発しました。ずっと楽しみにしていた旅程にワクワク胸弾み、中国青島では、生活経験があるものの、ここ数年で空港での対応も一変して年々に変化の様子に驚きでした。TRANSITのため広州に着きますと、万博の入場を思わせる大行列で並び、広大な空港の広さと、人、人の列に中国の活気ある雰囲気のにまれ目覚ましい活力を感じました。

機内の空から見る景色に、風力発電の帯が広域な山々に連立していたのには驚きました。良いエネルギー環境を進めるだけの大地があります。私たちが訪れた麗江の空は澄み渡って空気が良くて素晴らしい環境でありました。

殊に文化に触れる旅として、2500mの高地にある高級庭園付きホテルでの滞在、素晴らしい将社長の歓迎に、深謝尽きない思いでした。ナシ族の発展のお話や特別な楽器演奏で迎えてくださいました。私は、高山に弱くて体力維持に酸素ボンベ抱えながらも、一休みして将社長にマロドン企画、拙著他言語絵本寄贈に大変喜ばれて、子供の目に触れる書棚に並べてくださり最高の交流の記念になりました。

また、東巴文字という3300年も歴史ある書と出会い象形文字等の意味のある文字文化を学びました。世界平和を東巴文字で描き、共に切なる思いに熱くなりました。

四川省樂山市の中国共産党樂山市委員会書記である趙波氏と理事の懇談では、訪中団を大変に歓迎され、胡金定先生の日頃から人と人の絆を結ぶ民間交流を非常に大切にされてきたことが本当によく解り、感謝感動のお出合いをさせていただきました。趙書記と固い握手を交わし、絆と信頼を得た様子を胸に刻みました。市の特別な観覧招待やレセプション会場での食事会等、感謝の連続に胡金定先生よりマロドンの他言語絵本寄贈にお声掛けの機会をいただき、大変喜んでいただけたことに最高に嬉しく思いました。体調を心配して優しく支えてくださった皆様に感謝と共に今後も友好親善を大切にしたいと思います。



※ 郭沫若(かく まつじゃく、1892年 - 1978年)は、中国の詩人、歴史家、考古学者、政治家です。出身地は樂山市です。近代中国の文学と歴史学の開拓者の一人であり、波乱に富んだ人生を送りました。

郭沫若は、1914年から1923年にかけて日本に留学し、九州帝国大学医学部で学びました。この間、文学活動に没頭し、詩集『女神』を刊行するなど、中国現代詩に大きな影響を与えました。

郭沫若が昭和3年から約10年間、千葉縣市川市の須和田に住んでいた縁で、1980年に市川市と樂山市の友好都市締結のきっかけとなった郭沫若の旧宅を、「市川市郭沫若記念館」が建てられました。市制施行70周年を機に真間5丁目公園に移築・復元したものです。

樂山市と市川市の友好の証として、樂山市から郭沫若の故郷を懐かしむ詩「峨眉山山頂の白雪」が彫られた詩碑が寄贈されています。

郭沫若は日中友好協会名誉会長を務めるなど、日中文化交流にも尽力しました。

中国の現地の人達との交流

久野正博



約35年前に初めて中国陝西省西安を訪れて以来、多分これで通算12回目の中国旅行になりました。全く一人での旅行から小グループでの旅行、今回のような多人数での旅行等、様々な旅行を経験してきました。訪れた所も色々です。雲南省麗江は初めての地でした。澄み切って遠くまで見渡すことのできる山々、富士山より高い所へ酸素ボンベの助けを借りての登山。少数民族の踊り、麗江古城。四川省は二度目ですが都江堰と三星堆博物館以外は全て初めて訪れる所ばかりでした。

三星堆博物館は新しい建物になっていて以前より数量も多く物凄く迫力が有りました。船からの樂山大仏。峨眉山の頂上にある巨大な観音様の壮大さ！郭沫若故居。本当に中国は広く、訪れる所がものすごくたくさんあると痛感しています。

そして、特にうれしいのは私が今まであまり経験してこなかった旅が、この日中文化振興事業団の旅行にはあります。それは、現地の人達との交流です。去年は、道教寺院の人達との交流。今回は、少数民族の人達との交流。普通の旅行では味わえない楽しさと深さがこの旅行には有ります。これは、この旅を計画して頂いた胡金定先生の人脈の深さと日中友好への熱い思いがなせる業と尊敬しています。国と国との友好関係を築く根本は、人と人との人的・文化的な交流、友好関係が有って初めて成り立つものと考えています。私の個人的な気持ちは、中国古典文学が好きでそれに関連するあちこちの文化遺産を見たいと言うことから中国を訪れていました。

日中文化振興事業団の会員になって、日中友好への重要性を改めて認識してこれからは少しでも日中友好への努力をしつつ、毎年の日中文化振興事業団による中国旅行を楽しみにしています。



三国志の登場人物である龐統（ほうとう）の出身地は、荊州（けいしゅう）襄陽郡（じょうようぐん）襄陽県（じょうようけん）（現在の中国湖北省襄陽市）です。

龐統は、現在の四川省にあたる「益州（えきしゅう）」を劉備（りゅうび）が攻略する際に重要な役割を果たし、その地で戦死しました。

劉備が天下三分の計を実現するために益州（四川省周辺）へ侵攻した際、龐統は軍師として従軍しました。当初、劉備は益州の領主である劉璋（りゅうしょう）と同族であったため、本格的な攻撃を躊躇していました。しかし、龐統は劉備に益州を奪うよう積極的に進言し、攻略のための策次々と提案しました。

劉備軍が益州の要衝である雒城（らくじょう）を攻めている最中、龐統は流れ矢に当たって戦死しました。この出来事は、天陰の要害に守られた益州の攻略がいかに困難であったかを象徴するエピソードの一つです。

現在、中国の四川省徳陽市羅江区には、龐統を祀る「龐統祠」という史跡が存在しており、彼と四川省の歴史的な結びつきを示しています。

このように、龐統の生涯の最重要局面は四川省（益州）の攻略と深く関わっています。

龐統祠

重慶から北西へ高速鉄道で約2時間半。四川省徳陽市の国家AAAA級旅游景区の一つである白馬関景区の中に位置する三国史跡。「伏龍（諸葛亮）、鳳雛（龐統）、どちらかを手に入れば、天下を安定させることができる」と世間に言わせる等、諸葛亮と並び称される後漢末期の軍師「龐統」を祭った場所。龐統は劉備とともに四川省を攻略中、敵の流れ矢に当たって落命。祠は劉備によって建てられるが後の戦争によって破壊、清の時代（1691年）に修復された。栖鳳殿の後ろ壁の扉を出ると墓が現れるが、これは後に龐統を記念するために建てられたもので、本当の墓は龐統祠に近い落鳳坂の傍にある。小さな記念館も併設されている。



・2019年4月15日から毎日文化センターにて「中国世界遺産の魅力」講座を開設して、5年かけて講了。

現地学習

- ・第一回 胡金定教授と巡る『中国の世界遺産から学ぶ「北京と曲阜」』(2019年11月1日～5日の5日間)
- ・第二回 胡金定教授と巡る『中国の世界遺産から学ぶ「紹興・黄山・杭州」』(2020年3月6日～10日の5日間)
を予定、コロナで中止
- ・第三回 胡金定教授と巡る『九州北部「日中交流の絆」と「藩校の遺産」』(2021年3月17日～19日の3日間)
- ・第四回 胡金定教授と巡る(第二回)「日中交流の絆」と「藩校の遺産」中国地方篇①『岡山県各地と福山市』
(2025年3月8日～9日の2日間)
- ・第五回 胡先生と行く～三国志・赤壁の旅～中国・武漢他5泊(2024年10月11日～16日の6日間)
- ・第六回 胡先生と行く～雲南麗江市・四川省成都市・樂山市の旅～7泊(2025年10月11日～18日の8日間)
- ・第七回 胡先生と行く～湖南省張家界・陝西省西安市の旅～7泊(2026年10月10日～17日の8日間)予定

2025年7月の第47回世界遺産委員会終了時点で、中国の世界遺産の総数は60件です。

これはイタリアの61件に次いで世界第2位の登録数です。

内訳は文化遺産、自然遺産、複合遺産が含まれますが、最新の総数としては60件が確認されています。

出会いをご縁に、現地で中国世界遺産の魅力を堪能しながら、現地の人的交流を通して、日中友好を深めていきます。

・旅行の目的は、お互いの親睦、日本文化と中国文化の交流、中国世界遺産の魅力を堪能します。また、日本における中国文化ゆかりの地旅行により、日本文化を再発見します。

2025年に開催された世界遺産委員会の終了時点における統計

世界遺産条約の締約国：196か国

世界遺産の保有国：170か国

世界遺産の総数：1248件

文化遺産：972件

自然遺産：235件

複合遺産：41件

危機遺産：53件

登録を抹消された世界遺産：3件

世界遺産登録数ランキング

1位	イタリア	合計	61	文化遺産	55	自然遺産	6	複合遺産	0
2位	中国	合計	60	文化遺産	41	自然遺産	15	複合遺産	4
11位	日本	合計	26	文化遺産	21	自然遺産	5	複合遺産	0

